UMINと私 UMINと私

国際医療福祉大学 大学院長 (元東京大学医学部附属病院 中央医療情報部長・教授)

開原成允

樫田良精先生 と Lindberg 教授





UMINの歴史(第1期)

- 1973年 東大病院に大型コンピュータが設置 される
- 1980年 京大病院、阪大病院、千葉大病院、 東北大病院、九大病院、高知医大病院など次 第に大学病院にコンピュータが設置されるよ うになる
- 一方、大型コンピュータセンター間でN1プ ロトコールでネットワークが形成される
- 1986年 病院用コンピュータネットワークの 調査費が認められる

UMINの歴史(第1期)

- 1987年1月 国立大学医療情報ネットワーク 調査委員会を設置
- 1988年 センターコンピュータ及び接続の費用が認められる
- 1988年7月 センターコンピュータ設置
- 1988年9月 国立大学病院長会議常置委員長から「ネットワークの設置について」通知
- 大型コンピュータセンター、学術情報セン ターと接続、MEDLINEに接続

UMINの理念

- ■診療に関する情報の交流による診療の 質の向上
- ■事務作業を共通に行うことによる病院 運営の効率化
- ■研究上必要な情報の迅速な取得による 研究の向上
- ■大学病院関連の諸統計の編纂

「たてまえ」と「ほんね」

UMINの理念

- ■診療に関連する情報が大学病院間で交流することはなかった
- ■事務作業を共通化など誰も考えていな かった
- ■研究上必要な情報はネットワーク上に存在せず、電子メールの交換の習慣もなかった
- 大学病院の諸統計の編纂は、ネット ワーク開設前から行われていた

初期の頃、UMINを担当した大橋靖雄助教授(当時)、桜井恒太郎助教授(当時)は、全国の接続の完了した大学病院を訪ねて、UMINのセールスを行った。

しかし、それでも利用はわずかであった

UMINの歴史(第2期)

- 1993年 UMINのセンターコンピュータの 更新の時期を迎える
- 米国では、インターネットが大学で使われは じめていた。しかし、日本ではインターネットは主流ではなかった
- 米国のNIH/NLMに Donald A B Lindberg を訪ね意見を求めた
- 1993年12月 IP接続によるインターネット と接続したUMINが稼動した

「たてまえ」と「ほんね」

- UMINの「たてまえ」
 - 国立大学病院の間のネットワーク
 - 診療情報を扱うので、閉じたネットワークで なければならない
- <mark>- 「ほんね」</mark>
 - できるだけ多くの人に利用してもらいたい
 - 医療に国立/私立、大学/病院の区別はない
 - インターネットに接続すれば、それが可能に なる

インターネットに接続、ネットワークの中に閉域網を作る

N1接続システムは保持しつつ、インターネット接続のシステムを新たに設置して、同一の内容を扱えるようにする

私立大学にまで利用を広げる

UMINの歴史(第2期)

- 1993年 UMIN上で GOPHER 稼動 (World Wide Web は、まだスイスで開発中 であった)
- 1994年 インターネットメールシステム稼動
- 1994年3月 すべての国立大学病院のコンピュータがUMINに接続.41大学病院中の19大学病院がIP接続
- 1994年5月 WWWが稼動、ホームページ開設

「たてまえ」と「ほんね」

- WWWとメールシステムによって、利 用は急速に拡大した
- 「たてまえ」だけでは、ものごとは動かない、本当に役立つものを作らなければ成功しない
- しかし、理念(たてまえ)は、やはり 必要で、それと、新しいものを生む環 境が必要

UMINと国立大学

- 全国にサービスを提供するシステムが 1 大学の中で稼動しているのは、あま り例がない
- UMINを生んだ環境
 - 最先端の技術を得られる環境
 - モラルの高い研究マインドを持った人たち
 - 中央医療情報部の存在
 - 無料でのサービス提供が可能
 - 中立性

大学法人の中でのUMIN

- ■世界に類をみない学術的な価値を持つ 大規模な情報システム
- 利用者のニーズによって発展してきた システム 「たてまえ」と「ほん ね」の完全な一致
- ■大学法人化された中では、新しい経営 理念が必要かもしれない